

2026年7月14日

2026年度 学区相談役会議 報告書

行事委員会

日 時 2026年7月11日(土) 13:15～15:00

場 所 天神山福祉会館 集会室

出席者 学区相談役4名 役員10名

① 会長挨拶

学区相談役の方々は、永年にわたり当こじょう会に貢献していただきありがとうございます。年1回の会議です。有意義な会議になるよう願います。

② 役員ならびに相談役の自己紹介を行った。

③ 鯨城会・西こじょう会の入会状況・会員数推移・西こじょう会各ブロックの状況について。

鯨城会は今年、会員数が初めて2,000人を割り込んでしまった。西こじょう会についても2018年の会員数を100とした場合、年々減少し今年度は72となってしまった。

各ブロックは、昨年比微増と微減が入り混じり全体として横ばい。

④ 西こじょう会の今後

鯨城学園(以下学園)の入学者数が減少しているため、必然的に卒業者も少なくなっている。学園は、新規入学者減を補うため、中途退学・再入学その繰り返しを安易に認めている。

入学者500名中、新規400名、再入学100名といったところである。退学後、再入学・再々入学者は、以前と内容が同じ共通講座には出席せず、高齢者の仲間づくりに励んでいる傾向が見て取れる。本末転倒ではないか。再入学・再々入学はやめさせてほしいなどの意見が多数であった。

働き手の年齢が上がっている昨今、入学条件をたとえば60歳から70歳以上に引き上げるなど、世の中の変化に対応して学園も変わらなければとの意見も出た。

また、学園生は卒業時に、各区鯨城会に全員いったん入会することを、入学案内に明示すべきとの意見があった。

学園は、定員割れを防ぐために専攻科目を統廃合し、その場しのぎの方策に終始している。十年一日の如き講座内容。旧態依然の学園を魅力ある学園にするための改革が急務との意見が多数に上った。

また、学園の指定管理者は現時点で社会福祉協議会だが、先行き、管理者がどこになるかも不透明な昨今、改革を先送りにしている一因にもなっている。

代議員会でもたびたび話題の案件という。学園に最も近い鯨城会からの風圧により風穴を開けるのを期待したい。

一方、西こじょう会ですが、加入したくない一番の理由が、「役員をさせられる」であった。

役員をすることにより、人との絆が深まったり視野が広がったりするなど、役員をやってよかったとの意見があった。

区会説明会時に、役員ではなくサポーターとして登録（今回5名）し、サポーターとしての活動を通して、役員への理解を深めてもらうような取り組みを行っている。学生にも西こじょう会の活動をつぶさにみてもらう機会が必要とのことだ。

ボラ祭りでPRすること、また地域ミーティングで役員会の説明をおこなうことなどを思案中。

39期生20名、40期生40名を対象に10月の作品展の案内書を配布済み。地道な活動を継続することで西こじょう会への理解が得られればよいのでは。

対して、加入したい一番の理由は「同好会が楽しそう」であった。同好会の充実が近道かもしれません。

⑤ その他

「西こじょう会だより」を、現在の年2回から3回にしたほうが良いのではないかとの意見あり。会員の7～8割に当たる70～80人が行事に参加していない現状を考えると、「西こじょう会だより」は会員をつなぎ留める手段として重要である。しかし、予算面、投稿者減および編集者の負担増を考慮すると年3回は難しい面がある。

ホームページが充実してきている。

楽しいイベントを増やすとか、永年勤続表彰のような制度を設けるなどの施策も考えたほうが良いとの意見が出された。

活発な意見交換があり有意義な会議でした。

以上